

## 産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(29~31年度:計画作成主体:七尾市農業再生協議会) (石川県)

### 取組の概要

対象品目 : 水稻 (産地面積30ha)  
 主な取組主体 : 農事組合法人アグリ飯川  
 成果目標 : 契約栽培の割合10%以上の増加  
              かつ50%以上  
 基準(H28年度) 契約栽培の割合 11.0%  
                   産地面積 11ha  
 目標(H31年度) 契約栽培の割合 52.5%  
                   産地面積 30ha  
 導入施設等 : 整備事業(乾燥調製施設の能力増強)  
                   もみ殻庫(89.4m³)、乾燥機(2台)、  
                   精米機(1台)、粉搗り機(1台)



### ポイント

#### 【取組の主題(テーマ)及び課題】

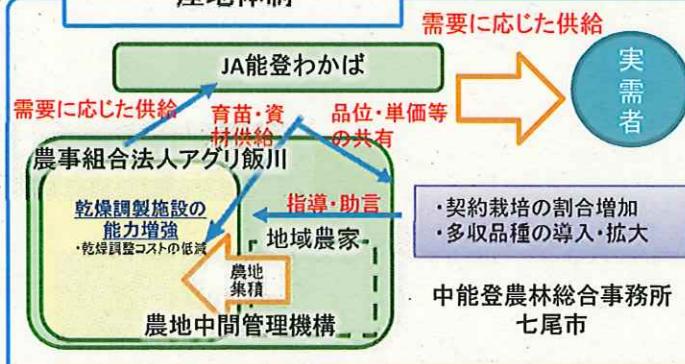
当該産地では実需者から契約栽培拡大を望む声があるものの、本産地に主食用米を引き受ける農協の共乾施設がなく、各農家が保有する乾燥機等で調製を行っているが、老朽化により能力不足であり、実需者の要望に応えきれない状況。また、本法人では平成30年度までに産地の30haを引き受ける予定としており、経営規模拡大や作業効率化、品質向上のために早急な施設整備を必要としている。



#### 【革新的な方策(産地イノベーション)】

乾燥調製施設の能力増強により、地域の大半の農地を引き受けることが可能となり、作業効率の向上、生産コスト削減が見込まれる。また、刈り遅れ防止による品質管理によって、需要に応じた安定供給と均一な品質管理を可能とし、契約栽培の拡大を図る。

### 産地体制



### 取組成果

#### 【契約栽培の拡大】

- ・乾燥調製施設の増強により、適期刈取、均一な乾燥が可能となり、良質米を安定供給し、契約栽培の拡大を図る。

**米の契約栽培の割合  
47.6%増加  
(達成率115%)**

#### 【直売販売の拡大による収益力の向上】

- ・精米機の導入により直接販売を拡大し、収益力の向上を実現。

### 地域における独自の取組

#### 〈主な取組〉

- ・多収品種 (ひやくまん穀、あきだわら)の導入・作付拡大の推進。
- ・農地中間管理事業を活用した農地集積を推進し、地域の小規模農家の機械への過剰投資を抑制。

